

報 告 書

開催日時	令和 7年 7月 23日		19時 00分	～	20時 30分
自治協議会名	中瀬地域住民自治協議会		開催場所	中瀬地区市民センター	
出席議員	西田 方計、百上 真奈、浅川 友和、森中 秀哲				
	班長	西田 方計	記録・報告者	浅川 友和	
参加人数	18 名				

【主な意見・提言等】

①弱者の公共交通について

・高齢化が進む中瀬地域で、家族が高齢家族の免許返納を求めても、公共交通、特にバス交通が不便なため、返納できない状況の世帯が増えている。

合わせて、今後、女性の独居世帯も増加していく。買い物目的よりも、医療機関への通院が問題になっている。

・通院したら、ついでに買い物や金融機関、個別の用事などが自由にできるような公共交通を求めている。

・年金暮らしの住民からは、タクシー代で毎月2万円使っており、生活が苦しいと訴えられた。

・小さめサイズのバスで、本数を増やし市内各地を走らせてはどうか。

・通院や買い物に行きたいが行けないと困っている人はたくさんいるのに、実際に運行してみると、利用者はほとんどいない。なぜ、利用しないのか、その理由を把握することが必要。

・中瀬地域で、どのような困りごとがあり、どのような交通を必要としているのか調査が必要。

・調査をした上で、地域で車を所有しサポーターを常駐させて共助型ライドシェアができるか。また、継続できるよう乗ってもらえるものにすることが重要。

・中学生は、自転車通学。高校生は、祖父母も含めて家族が伊賀神戸駅まで送迎をしている。もしくは自転車を利用。

・小学生のうち、桜ヶ丘ニュータウンは、徒歩通学規定の3kmを超えている地域があるため徒歩通学で45分かかっている。荒木の「一休」までは教師が引率しているが、そこから先は小学生だけの下校になるため危険である。スクールバスの運行をPTAが要望しているらしい。

（議員からの意見、情報提供）

・国交省が許可は不要とした「共助型ライドシェア」の紹介。

・令和9年度に策定される「地域公共交通計画」は抜本的な見直しが必要。

・総務常任委員会の視察先の茨城県大子町と高萩市の公共交通を紹介。

・交通は生活の土台であり、今、取り組まなければならない問題であるということが、参加者の共通認識となった。

②獣害対策活動について

・獣害対策の勉強会を年に1回している。中瀬の被害状況は服部川を挟んで被害がある。

・西明寺などにはフェンスの柵がない。荒木の方が効果があるがそれでも被害はゼロではない。

・寺田は山の方から来る。また、名阪国道があるため西に移動はない。やはり、川から来ることが多い。昼は竹藪に潜んで夜に活動する。

・箱罾を2基準備している。（補助金を活用して設置）

・三重県に服部川の竹藪の伐採を依頼したが、治水上、問題があるためできないと回答。

・荒木ヶ丘は家の前まで、民家の前まで鹿が出没。仮に荒木ヶ丘にフェンスをしたとしても他に
出没するだけだから、どうしたら良いのか？人に被害が出てからでは遅い。

・荒木団地も沢山いる。住宅地には柵をするしかない。

・効率が良いのはフェンスだが、川沿いに設置するのは難しい。

・フェンスの設置が難しい。地域の出合であるような情勢ではない。

・新興住宅地と農村部とはフェンスの設置の考え方が違う。

・フェンスではなくて捕獲に重点をおいては？

・川の中の竹藪が問題であれば、竹藪をどうにかするしかない。

・竹藪が鹿の住処なので竹藪を伐採するのが効果的だが処理するのが大変。処理するのにフェン
スを設置するのと同じ費用や動員が必要。

・現状の鹿の状況を把握し、まずは一頭一頭捕獲していくことが重要かもしれない。

※要望 罾の補助金の増額（現状は20万）、柵の整備に対して国が1/2なので残りを市でお願いし
たい。

伊賀市議会議長 様

令和7年8月19日

上記のとおり、地域意見交換会の概要について報告いたします。

令和7年度 地域意見交換会 6 班

班長 西田 方計
